

「9節 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察」

南北アメリカを文化的背景によって地域区分する際、カナダとアメリカ合衆国をアングロ・サクソン人(イギリス人)の文化の影響が強いアメリカという意味で、アングロアメリカといい、メキシコ以南をスペイン、ポルトガル(ラテン民族)の影響の大きいアメリカという意味でラテンアメリカという。第5回のレポートでは、アングロアメリカについて学習する。

アメリカ合衆国は、近代以降政治、経済、文化などいろいろな面で、世界に大きな影響を与えてきた国である。私たちの身近なところにも野球、ハンバーガー、ジーンズ、スーパーマーケットなどアメリカ由来のものが満ちあふれている。まず広大な国土に約3億人の人々が住む超大国アメリカの、多様な自然環境、歴史的経緯、都市、農業、工業について学習し、つぎにアメリカ合衆国と深いつながりがあるカナダについても学習する。

【1】 (1)地図帳P85を参照、教科書P297を参照

- ・北アメリカ大陸の約半分を占めるアメリカ合衆国(以下「アメリカ」と表記)は、多様な自然環境が見られる。教科書や地図帳をもとに理解を深めよう。

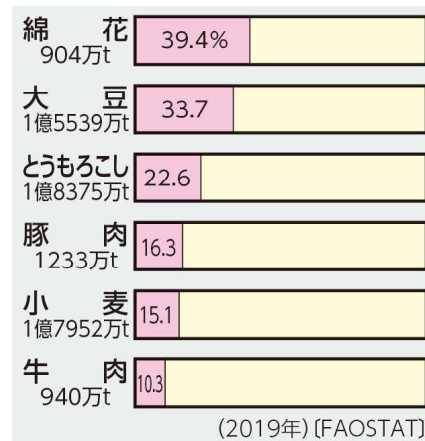
(2)教科書P295を参照、学習書P234を参考

- ・五大湖はかつて氷期(氷河時代)に大陸氷河の侵食によってつくられた凹地に、水が溜まってできた。セントローレンス海路、セントローレンス川を通して大西洋につながるの、内陸水路として重要である。

【2】教科書P298~299を参照、学習書P181を参考

- ・移民国家であるアメリカの人種・民族の分布を、歴史的経緯との関わりの中で理解しよう。
- ・20世紀以降、アングロサクソン系以外の文化を持つ移民(ヒスパニック系など)が増え、アングロアメリカというのは、実態と異なりつつある。

【3】教科書P300~301を参照、学習書P236~237を参考



- ・アメリカでは農業の「工業化」が進み、世界的な農業国になった。日本もアメリカから様々な農産物を輸入している

(2)教科書P300「③おもな農産物の総輸出に占めるアメリカ合衆国の割合(2019年)」を参照

- ・(3)アメリカの農業地域を自然環境と関連づけて考えてみよう。
  - ・適地適作を行うことで生産コストを最小限にとどめ、利益を最大にすることができる。

【4】(1)教科書P302を参照、学習書P238~239を参考

- ・教科書P302図1のようにアメリカ合衆国の工業が分布している背景には、どのような産業構造の変化があるのだろうか。

【5】教科書P304~305を参照、学習書P235を参考

- ・教科書P304図3のようにアメリカ合衆国の人種・民族の分布には、地域的な特徴がみられる。移民による多民族社会の課題にはどのようなものがあるのだろうか。

【6】教科書P306を参照、学習書P235を参考

- ・野球は19世紀頃にアメリカ合衆国で確立された後、世界各地に広まり、多くの国々で親しまれている。

【7】(1)教科書P303を参照、学習書P234を参考

- ・北アメリカ大陸の北半部を占める広大な国で、面積は世界第2位である。しかしロシアと同じように冷帯(亜寒帯)気候の地域がほとんどで、人口の大半はアメリカとの国境に近い南部に集中している。
- ・カナダにはフランス人が最初に入植したので、いまでもフランス文化の影響が根強く残っている。

(2)地図帳P6を参照

- ・この機会にカナダの首都を覚えよう。

【8】教科書P298を参照、学習書P235を参考

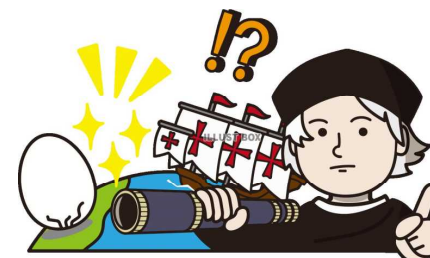
=アメリカ合衆国の国名の由来=

最初はアメリカ合衆国。「アメリカ」は実は大陸を発見したある探検家の人名が由来なんですよ。

ここで「ん？」と思った方、たくさんいらっしゃると思います。

そう、アメリカ大陸を最初に発見した人物と言え、クリストファー・コロンブス!ですが、「アメリカ」の由来はイタリア人探検家であるメリゴ・ヴェスプッチさんの名前からだというんですよ。というのも、メリゴさんの前にコロンブスさんがアメリカ大陸を発見していたのは事実なんですけど、コロンブスさんはアメリカ大陸をアジア(インド)だと勘違いをしていたため、彼の名前は付かなかったんだとか。

(インターネット「アメリカやイギリスの由来、知ってる?以外と知らない【国名の由来】10選」より)



# クリスマスって何？



## ～クリスマスについて学ぼう！～

12月24日はクリスマス・イブ、25日はクリスマスですね。日本でもクリスマスが定着してずいぶん長くなりますが、みなさんはそもそもクリスマスとは何か知っていますか？キリスト教に関係がある（らしい）ということは知っていても、それ以上のことはあまり知られていないのではないのでしょうか。そこでクリスマスを前に、「クリスマス」について考察してみましょう。

### ・クリスマスって何の日？

- クリスマスは英語の Christmas・Christ（キリスト）の mass（ミサ：キリスト教、特にカトリックの礼拝）で、イエス・キリストが約2000年前にこの世に生まれたことをお祝いする日。
- 12月24日はクリスマス・イブ（Eve）・「前夜」の意味。
- 「Xmas」の「X」はギリシャ語の「ΧΡΙΣΤΟΣ（キリスト）」の頭文字で、「Christ-mass」と書いたのと同じ意味になる。  
ただし「X'mas」と書くのは間違い。

### ・「メリー・クリスマス」とはどういう意味？

- メリーは Merry・「楽しい」、「愉快的な」の意味。クリスマスおめでとう！という意味。

### ・イエス・キリストは本当に12月25日に生まれた？

- イエス・キリストがいつ生まれたかについては聖書を初め、記録が残されていない。イエス・キリストの正確な誕生日はわからないが、4世紀から12月25日に祝われるようになった。
- 古代ローマでは12月の冬至に太陽を祭るお祝いをしていた。冬に向け次第に短くなってきた昼が、この日を境にまた長くなっていき、光がよみがえるということを祝っていた。そこで当時ローマ皇帝は12月25日を太陽神の誕生日と決め、このことから教会はこの祭日を利用してイエス・キリストの誕生を祝う日と定めた。

### ・クリスマス・カラーの緑や赤には何か意味がある？

- 「緑」・「常緑樹」・強い生命力を持って一年中緑の葉を茂らせる・「永遠」・「神の愛の永遠」、「イエス・キリストが与える永遠の命」を表す。
- 「赤」・イエス・キリストが私たちに永遠の命を与えるために十字架にかかって死んだ。その際に流した「血」を表す。



### ・クリスマス・ツリーやイルミネーションの始まりは？

- いろいろな説があるが、宗教改革で有名なルターがクリスマス・イブのミサの帰りに森の中に美しく輝く星々に感動し、それを伝えるためにもみの木の回りにろうそくを飾りつけたのが始まりとする話がある。

### ・サンタ・クロースはクリスマスとどんな関係がある？

- サンタ・クロースの起源は4世紀に今のトルコに実在したニコラスというキリスト教の司教（位の高い神父）で、貧しい人々や子供達を助けたことで多くの人に慕われ、後に聖人とされ聖ニコラスと呼ばれた。
- 聖ニコラスがオランダ語で「Sinterklaas」と呼ばれていたのが、後に英語的な発音に直されて「Santa Claus」（サンタ・クロース）になった。
- 19世紀に入るとサンタ・クロースは夢物語にしたてられ、トナカイのそりに乗ってやって来て、煙突からはいるというイメージになってしまった。

### ・クリスマスにはなぜプレゼントを贈る？

- 困っている人を助けたり、誰かに優しくすることこそがイエス・キリストの思いにかなった「クリスマス・プレゼント」になるのではないだろうか。

### ・日本にもサンタクロースはいたのか？

- 日本発祥のサンタクロースは、北国生まれの義理人情に厚い男・三太九郎（さんたくろう）。「さんたくろう」は、白く長いヒゲを蓄えたおじさんで、布の頭巾・ロングコート・ロングブーツ・白いヒゲに斜めがけのバッグ、手には小さなツリーを持っています。お供しているのは、トナカイではなく小さなロバ。背中のカゴにはいろいろなおもちゃを積んでいます。「良い行いをしている子どもたちは贈り物をくれる人」、「義理人情に厚い北国の男」として「三太九郎（さんたくろう）」ことサンタクロースが描かれています。